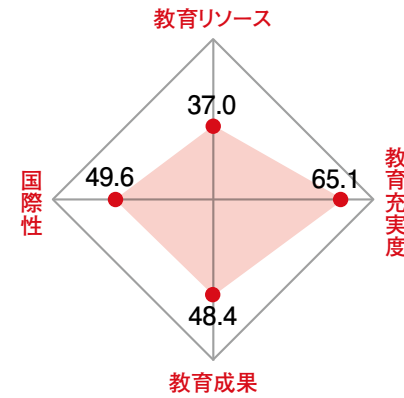




学生数/19876人 学部/文、経済、経営、法、政策、国際、先端理工、社会、農
大学院/文学、経済学、経営学、法学、政策学、国際学、理工学、社会学、実践真宗学、農学
●THE世界大学ランキング日本版2019/121-130位

THE世界大学ランキング日本版2020の結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	49.8	=100位	外国人学生比率/2.2%
教育リソース	37.0	150位	日本人学生の留学比率/8.3%
教育充実度	65.1	=79位	外国語で行われている講座の比率/1.7%
教育成果	48.4	109位	海外の大学との大学間交流協定数/212校
国際性	49.6	88位	



内発的改革を支援する龍谷IP事業

教育改革の取り組みに対して企画選定型で事業経費を補助する「龍谷IP (Ryukoku Inventive Program) 事業」

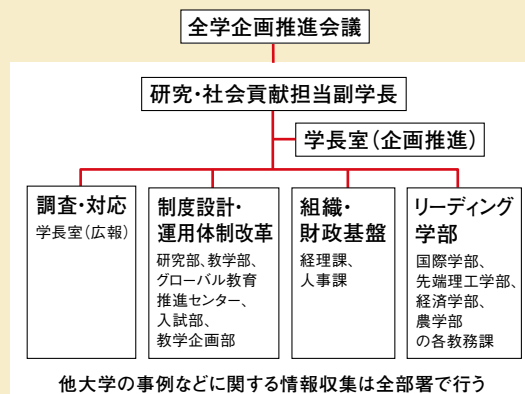
年度	採択取り組み (過去3か年)	部署
2020	産農学連携をベースとした複合領域型プロジェクトの推進 ~文理融合型キャンパス横断学修プログラムの構築を目指して~	農学部、経営学部
	市民的教養を起動する教養教育プログラムの開発 ~テーマを持った学びに誘う全学アクティブラーニング科目と領域融合科目の開発~	教養教育センター
	地域連携型教育 (CBL) プログラムのモデル化および質保証の実質化 ~現代ニーズに応える教育を目指して~	政策学部・政策学研究所
2019	社会人メンター制度導入のためのパイロットプロジェクト ~社会人と学生を繋ぐ、メンターシップという新たな共生の絆を紡ぐ~	法学部、キャリアセンター
	グローバル人材育成を目指すASEAN体感プログラム ~ベトナムおよびシンガポールの大学・企業をめぐる理工系スタディツアー~【第2期】	理工学部
	公募推薦入学者を対象とした入学前課題の実施【第2期】	理工学部、農学部
2018	「龍谷大学政策学部と南京大学金陵学院化学と生命科学学院との学生交換協定」に基づく学生交流プログラム ~地域自然資源の魅力を発掘し活用することで持続可能な自然共生社会のモデルを目指す~【第2期】	政策学部・政策学研究所
	地域協働と学科・専攻横断による実践的学修プログラムの構築 ~人文知を活かした新たな社会活動の試み~	文学部
	グローバル登龍門プロジェクト ~実践的なコミュニケーション力を備えた人財育成~	国際学部、グローバル教育推進センター、キャリアセンター
	英語力の向上を目指す多読指導	教養教育センター、図書館

注目! 全学タスクチームで取り組むランキングマネジメント

龍谷大学では、主管部署が他部署に対応を依頼する形ではなく、タスクチームの全部署が当事者となり、ランキングの活用と向上に取り組んでいる。例えば、経理課は教育・研究環境を充実させるための財政の整備を進めており、人事課は新たな人事制度の開発などを通して改革の後押しをしている。リーディング学部^{*4}は、留学プログラムの開発などに積極的に取り組み、全学のグローバル化を推進している。

対策を短期(1年以内)、中期(3~4年以内)、長期(5年以上)に分けている点も特徴だ。短期はランキングの登録漏れ項目の洗い出し、中期は論文数の増加、長期は評判調査スコア向上などが課題だ。

13部署で構成される全学タスクチーム



他大学の事例などに関する情報収集は全部署で行う

*4 グローバル化に先導的に取り組む国際学部、先端理工学部、経済学部、農学部の4学部

龍谷大学

CASE STUDY

外部指標を活用した内発的改革の促進

龍谷大学では、全学タスクチームを組織して大学ランキングの積極的な活用を推進。2016年度から取り組む「IP事業」と合わせて、内発的な改革を活性化させている。



学長 入澤 崇
いりさわ かし ●1986年龍谷大学大学院文学研究科博士後課程単位取得満期退学(文学修士)。1990年同大学に文学部講師として着任、経営学部教授、文学部教授、龍谷ミュージアム館長、文学部長等を経て2017年より現職。専門は仏教文化学で、中央アジアを中心に数多くの遺跡発掘の実績を持つ。

教育・研究の質向上に大学ランキングを活用

本学は、教育・研究の質向上に取り組む中で、積極的に大学ランキングを活用しています。というのも、ランキングを構成する指標項目には、教員構成やS/T比など、教育や研究に関わる基盤的要素が多く含まれており、それらを抜本的に改善すれば、結果的に質向上が果たせると考えるからです。加えて、質向上の達成度をランキングにより定量的に把握することもできます。

しかし、理由はそれだけではありません。教育・研究の質を学外に伝えるツールとしての価値にも注目しています。

高校では、大学の教育力や研究力を示す指標としてランキングの利用が定着しつつあります。その

ボトムアップの改革を「企画選定型」で支援

内発的な改革を支援するしくみ

ため、ランキングの順位を高めることは、本学の教育・研究に高校生が目を向ける機会を増やすことにもなります。教育・研究の質を高め、それを高校生にきちんと伝えていけば、改革と学生募集の好循環が期待できるのです。

こうした考えの下、2019年度に全学タスクチームを組織し、ランキングの全学的な活用を推進しています。

タスクチームは、副学長を統括として全13の部署で編成されています。このチームの一番の役割は、ランキングの分析を通して本学の課題を共有し、当事者意識を持って、各分野での内発的な改革を促すことにあります。参加部署には教育、研究、グローバル化などの分野で、意思決定を行う会議体の事務局が含まれています。まずはタスクチームで問題意識を共有し、それを各会議体に伝え、改善の企画立案と実行につないでいきます。タスクチームが横串となることで、部門の枠を越えた改革案が生まれることも、期待しています。

として、2016年度から「IP事業」を始めました。

これは、学部などの部署単位で申請した企画を審査し、優れた企画に事業経費を補助する学内の事業です。各学部・研究科等の個性・特色を促進・深化する取り組みのほかに、複数学部・研究科等による横断的な取り組みも対象としています。例えば、文学部。専門性を生かした地域貢献の一環として地域の歴史を調べて魅力を発掘し、それをフリーペーパーで広く発信するなどの活動を行っています。これらを通して学生には、「今の自分にとってどのような社会貢献ができるのか」といった問題意識が芽生えつつあります。ボトムアップの企画だからこそ、当事者意識が高まりやすくなっています。

本学は2019年度に、20年後の創立400周年に向けた指針を「龍谷大学基本構想400」にまとめました。その中で、「まごころMagokoro」ある市民の育成」をビジョンに掲げています。その*2 KGIには広く国内外に認められることをめざして、*3 THE世界大学ランキングの順位を設定しました。この目標と現状とのギャップを全学で意識し、内発的な改革により、ビジョンの実現をめざします。

*1 龍谷IP (Ryukoku Inventive Program) 事業
*2 Key Goal Indicator *3 日本版で上位5%以内相当、世界版で上位3%以内相当にランクイン